

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりなき緊張感

考えよう柏の防災

Ka・Ka・Bou



ヒマワリはまちのシンボルです

2025 (令和7) 年9月27日/秋の防災訓練特別号

自然災害に強いまちづくりをめざしましょう!

今後 30 年以内に約80%の確率で起きます

南海トラフ巨大地震、首都直下地震、富士山噴火などの発災直後に必要な備蓄品はコレです

食料品や飲料水とともに、発災直後にスーパーやコンビニ、ホームセンター等の店頭から瞬時に無くなってしまふ(交通/運送網の遮断で長期間にわたり市場から消える)商品は、それが無いことで、その後の被災生活に大きな支障になります。以下は、防災士から助言されている代表的な6点です。

本件の情報出典元：防災士が主張する「3日後に日本中から消える意外な備蓄品」とは？

割りばしとスプーン

供給水(食品を洗う水)が非常に限られる中で、少しでも衛生的な食事をするためには、使い捨て商品である「割りばし」や「スプーン」が欠かせません。ないと本当に食事に困窮します。



キッチンラップ

食器にかぶせることで、食後の水洗いが省力できます。怪我の応急処置として止血用包帯にも使え、また風を通さない性質で身体に巻いて暖を保つ役割もあります。

乾電池

各家庭に蓄電池(バッテリー)や発電機があるわけではありません。またその駆動用燃料(ガソリンやガス)供給にも限界があります。電源確保の観点では、日頃から多種の乾電池を各家庭で保管し、ローリングストックで常時一定数以上を備蓄しましょう。懐中電灯用



の単一、それと単三、単四が最も汎用性が高い電池です。ボタン電池は補聴器、体温計などの普段の生活に欠かせない特異な器具に使いますので、できるだけ数多くの在庫を各家庭で用意しておきましょう。また、電池変換(アダプター)があれば、特定の電池が切れても別型で補完が可能となります。

乾電池は、普段の油断で在庫切れとなり、非常時にないことで最も後悔する商品といわれています。

以上は、災害発生後でも「心を支えてくれる」必須アイテムと考え、各家庭での備蓄を日頃から確実に行っておきましょう。

以下は、防災の専門家が本当にあって安堵したと感じる商品3点です。

携帯用の浄水器(命をつなぐ最終手段)

飲料水は備蓄品の中で最も早く在庫が底をつきます。そんな時、それ以外の水(川や沼の水、雨水等)を飲料水として利用可能にするのが「携帯用浄水器」です。アウトドア用品として販売されているものを是非、購入しておきましょう。



多機能ラジオ(暮らしの安心を支える)

停電でテレビやPC・携帯電話等が役に立たない中、災害時に正確な情報を得る手段として、防災用に設計された多機能ラジオ(乾電池/手まわし発電/ソーラー式/USBポート付)、LEDライト付きは、これ1台で、情報源、光源、電源の三源の機能を有しています。

簡易トイレ(これがないと人は本当に困るハズ)

水洗トイレが水不足や排水管損壊で使用不能となる場合、水なしでも用がたせる(家庭の便座にセットするだけの)「簡易トイレキット※」を備えておくことが必須です。できれば毎日各家庭で3~4回くらい排便やし尿で使用すると、そのおよそ1ヶ月分(90~100回分のセット)を備蓄しましょう。こればかりは他所をあてにすると大変悲惨な状況になります。精神的、衛生的にも絶対に必要な防災グッズと考えましょう。※便袋、凝固剤、消毒剤のセット



これら以外では、カセットコンロと燃料ボンベ、アルコール消毒剤のウェットティッシュも、相応の数が備蓄されていれば、毎日の避難生活には重宝する製品です。